

週休日の過ごし方は



(『勝』彦だから...)

WINDIANA JONES

～古代エジプト神の角～

太陽神アモン
(羊の頭)



アモン (Ammon)

+

石 (-ite)

||

ammonite



いわき市アンモナイトセンター

①いわき市アンモナイトセンター

アンモナイト2種、北海道以外で初確認 いわき・広野の地層で

岡本進 2025年5月16日 10時45分



list

0



福島県いわき市と広野町に広がる地層から、見つかった2種類のアンモナイトが、国内では北海道以外で初めて確認される貴重な化石だったことがわかった。県立博物館（会津若松市）などの研究グループが日本古生物学会の国際学術誌に論文を発表した。一部の標本は一般人が見つけた化石だった。

見つかったのは、恐竜が生きていた中生代白亜紀の後期などにあたる約9140万～約8800万年前の地層。地球上から姿を消したアンモナイトは中生代を代表する海の生物で、1万超



双葉層群足沢層 (8900万年前 中生代白亜紀)





11

10

9

109

50

107

101

メンブリア

アンモナイトの破片

メンブリア

メンブリア

サメの歯

サメの歯

サメの歯









『イノセラムス』（示準化石）



『ノジュール』



食べたら
出ちゃうよね

死亡

(一) 腐敗

バクテリア
(イメージ)

腐敗

※酸素の嫌いな「嫌気性バクテリア」の働きが重要となっています。

バクテリアが肉を分解（＝腐敗）する。分解した時に重炭酸イオンが生成され、同時にバクテリアの排泄物（おしっこ）により、アンモナイト周囲がアルカリ性環境になる。

炭酸カルシウム沈殿

完 成！

長い年月の間に炭酸カルシウムは方解石という鉱物に変化し、よりノジュールを硬くする。

成長

バクテリアが分解を続けている間、炭酸カルシウムの沈殿が続き、アンモナイトを中心に、炭酸カルシウムの層が厚くなってゆき、ノジュールが成長を続ける。

アルカリ性の環境では、重炭酸イオンと海水中に溶けているカルシウムイオンが結合しやすく、この反応により、炭酸カルシウムがアンモナイト周囲に沈殿する。

《北海道》
ノジュールが
柔らかい
⇒割れる

《福島》
とても硬い！
⇒時間と労力
の無駄…







《収獲》

- ・ イノセラムスの化石片（多数）
多分 0 ...
- ・ アンモナイト
多分 0 ...
- ・ サメの歯
多分 0 ...
- ・ 自傷打撲 + 血豆
- ・ 筋肉痛 + 腰痛



フタバスズキリュウ

産出地 →

フタバスズキリュウ産出地 所在地 いわき市大久町大久字板木沢

当時は、昭和43年10月、当時県立平工業高等学校2年生だった鈴木直夫がフタバスズキリュウの化石を発見した場所です。

同年県立科学博物館の小島副主、長谷川善和両博士の指導により第1次発掘調査が行われ、背椎骨、背盤、肋骨、後肢骨などが採集されました。

第2次発掘調査は、昭和45年10月から行われ、残る背椎骨、左右前肢骨、胸骨、梁骨などが採集されました。これらの化石は、中生代白垩紀後期（今から約8,500万年頃）の双葉道峠玉山層（入間沢部層）から発見されたもので、北太平洋沿岸地域で発見された背椎骨層では最古にして唯一のほぼ完全な全身骨格です。

フタバスズキリュウの学名は、フタバサウルス・スズキイ（*Futabasaurus suzukii*）といいます。2006年に新属新種として記載され、国内外で注目を集めました。この発見によって、「恐竜など中生代的大型爬虫類化石は日本列島からは産出しない」とされていた当時の定説が覆され、その後の恐竜等の発見・研究が飛躍的に進むきっかけとなったのです。

発見された実物は現在国立科学博物館に保管され、その骨格復元模型は国立科学博物館のほか、いわき市石炭・地質館にも展示されています。



白垩紀のいむき（生体復元図）

いわき市教育委員会

②フタバスズキリュウ産出地

フタバスズキリュウ産出地

所在地 いわき市大久町大久字板木沢

当地は、昭和43年10月、当時県立平工業高等学校2年生だった鈴木直氏がフタバスズキリュウの化石を発見した場所です。

同年国立科学博物館の小畠郁生、長谷川善和両博士の手により第1次発掘調査が行われ、脊椎骨、骨盤、肋骨、後肢骨などが採集されました。

第2次発掘調査は、昭和45年10月から行われ、残る脊椎骨、左右前肢骨、胸骨、尾骨などが採集されました。

これらの化石は、中生代白亜紀後期（今から約8,500万年前）の双葉層群玉山層（入間沢部層）から発見されたもので、北太平洋沿岸地域で発見された首長竜類では最古にして唯一のほぼ完全な全身骨格です。

フタバスズキリュウの学名は、フタバサウルス・スズキイ (*Futabasaurus suzukii*) といいます。2006年に新属新種として記載され、国内外で注目を集めました。この発見によって、「恐竜など中生代の大型爬虫類化石は日本列島からは産出しない」とされていた当時の定説が覆され、その後の恐竜等の発見・研究が飛躍的に進むきっかけとなったのです。

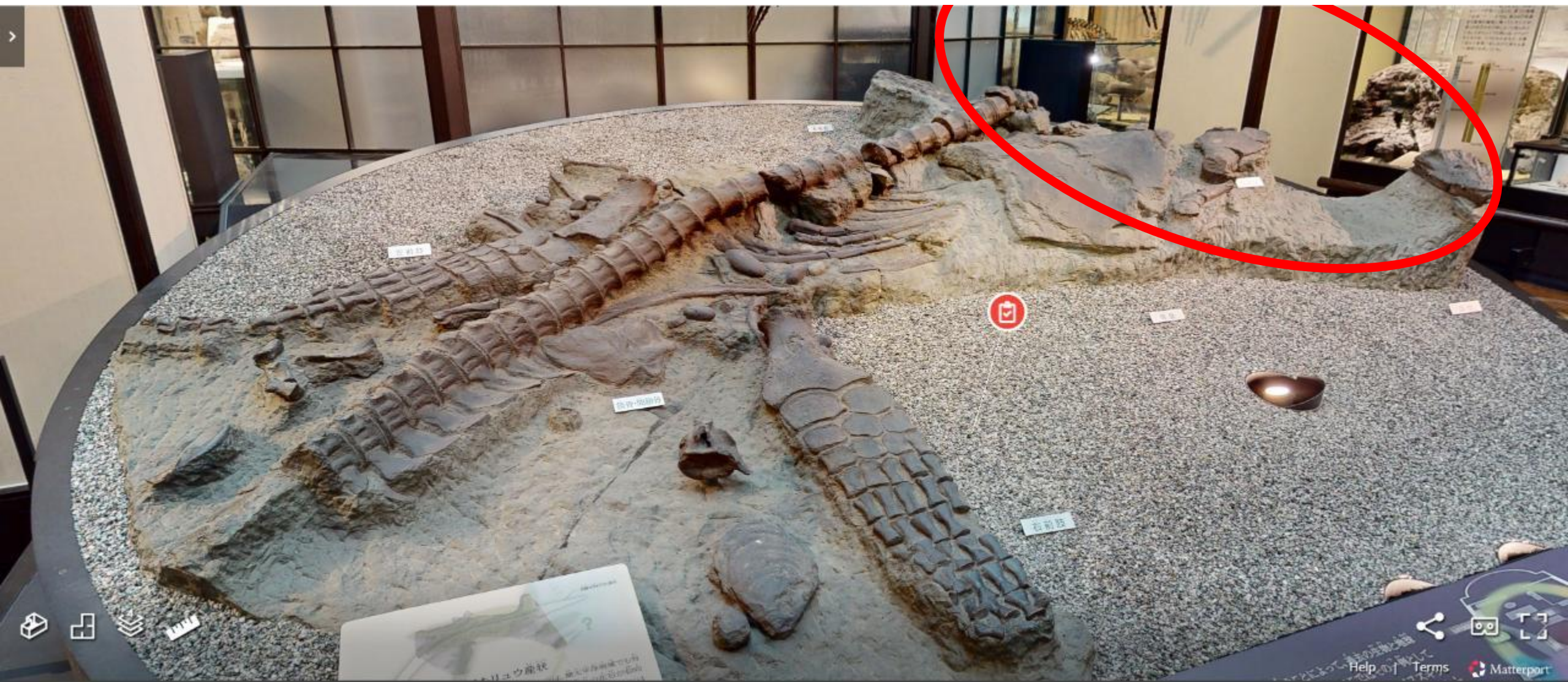
発掘された実物は現在国立科学博物館に保管され、その骨格復元模型は国立科学博物館のほか、いわき市石炭・化石館ほるるにも展示されています。



白亜紀のいわき(生態復元図)

いわき市教育委員会

大久川の流れによって削り取られてしまった…













AI

化石

阿武隈高地

1 億年前の変成岩
6000万年前の花崗岩
「紀山石」





③南沢化石産出地

化石のまち 「恐竜の王国」 広野町
桜沢化石群生地 入口

これより右へ 600m →



広野町・広野町観光協会 TEL 0240-27-4163
④ 桜沢化石群生地・恐竜発見地



恐竜発見地

⑤弁天岬




砂岩泥岩互層（タービダイト）







A red curtain with gold fringe and tassels framing a white sign.

**To be
continued...**